

所在地：滋賀県高島市

選定年月日：平成22年8月5日

面積：295.9ha

選定基準：二(一)(五)(八))

(1) 概要

高島市新旭町針江・霜降は、安曇川(あどがわ)下流域に広がる扇状地の扇状部に位置する集落で、周囲には豊富な湧水を活用した水田が展開しています。集落内では湧水に端を発する大小の水路が縦横に流れ、針江大川を経て琵琶湖に注ぎます。針江大川流域・水路・水田及び湿地・河口域の内湖及びヨシ帯・琵琶湖が一つの水系として連続し、豊かな生態系が育まれています。

集落の起源は少なくとも中世に遡ります。当時、比叡山延暦寺の荘園として既に広大な田地が開かれており、近世期には湿地を埋めて耕地化したことが記録されています。集落では湧水を活用したカバタと呼ばれる独特の洗い場を多くの家庭が有しており、その水は集落内の水路を経て水田・河川・琵琶湖岸へと繋がることから、水の使用については住民間で暗黙の規則が共有されてきました。

また、湧水は重要な生活上の資源として神聖視されており、湧水点では石造物等が祀られ地域住民によって維持・管理されています。近年はこうした水環境を「生水(しょうず)」と称し、地域の水環境を保全する取組が進められています。

このように、安曇川の湧水を利用した独特の生活が営まれると同時に、集落・河川・水田・ヨシ帯等が一体的な水環境を形成する貴重な文化的景観です。



安曇川扇状地に展開する針江・霜降の集落



針江大川



カバタと集落内の水路



日常の用に供するカバタ

（２）選定範囲



- 重要な構成要素：54件

（３）選定による効果

安曇川下流域に広がる扇状地の中央部に位置する針江・霜降地域は、豊富な湧き水と、それを活かした独自の生活文化が選定以前から注目を集め、増えすぎる見学者に対する地域住民による案内システムが確立されていることでも知られていました。

平成22年8月の重要文化的景観選定後は、地域住民を中心に組織された針江・霜降の水辺景観まちづくり協議会の役員らにより、見学用のカバタを整備したり、これまであまり紹介されることのなかった霜降地区に残るカバタの現況調査が行われています。



針江大川の清掃



カバタの案内

（４）保存活用計画などの基礎情報

- 「高島市針江・霜降の水辺景観」保存活用事業報告書（平成22年3月、高島市）
- 高島市重要文化的景観整備計画 前編（平成30年3月、高島市）
- 高島市重要文化的景観整備計画 後編（令和2年3月、高島市）
- ホームページ

<https://www.city.takashima.lg.jp/soshiki/kyoikusomubu/bunkazaika/1/1/1326.html>

（５）活用事例

事例25-03 ①

重要な構成要素（建造物）の価値を維持しながら、快適に使い続けるための取り組み

文化庁補助金

●行政による取り組み

「高島市針江・霜降の水辺景観」の重要な構成要素は、その多くが石造りのカバタで（54件中45件）、木造の建造物は3件となっています。

その3件は、いずれも経年劣化が進み今後の保存と継続した利用が難しくなっていたことから、平成25年度に美濃部家住宅、平成27年度に川島酒造酒蔵の保存修理を実施しました。

川島酒造酒蔵は、屋根瓦の葺き替えや古土撤去、野地板・登栈の設置などを行ったほか、後代に張られていた壁鉄板の除去と新たな漆喰塗りを行いました。素材を建築当初のものに戻すことで、建物が持つ雰囲気はより周辺の景観に調和したものとなり、周辺住民にも、この酒蔵が「針江・霜降の水辺景観」を構成する重要な建造物であることが、改めて認識されました。

修理後は、敷地内に複数ある蔵の中でもシンボリックなものとして扱われ、酒蔵見学などでは見学者が最初に話を聞く場所として使われています。



修理前（美濃部家住宅）



修理後



修理前（川島酒造酒蔵）



修理後

① 地域内での
魅力の共有

② 活性化の
目標の共有

③ 地域外への
広報

④ 魅力を引き
出す開発

⑤ 財源の
確保と運用

⑥ 人づくり・

（５）活用事例

事例25-03 ②

来訪者を受け入れながらも、住民が安心して暮らし、地域を知って楽しむ取り組み

●行政と住民等の協働による取り組み

選定前から清らかな湧き水とその水を使った暮らしで知られていた地域であったため、選定後は、単に見学者の増加や地域の観光地化を目指すのではなく、地域住民が住みやすい、住み続けたい地域だと感じることができるよう、いくつかの事業が取り組まれてきました。

選定後に地域住民を中心として組織された針江・霜降の水辺景観まちづくり協議会には、市内の他の重要文化的景観のある2地域と同じく、市が来訪者受入体制整備事業を委託しましたが、他地域とはやや異なり、住民の安全な暮らしのために、不法駐車を注意喚起するための看板や見学用のカバタを設置したり、お盆の時期に住民自らが参加し楽しむことのできるイベントを開催したりするなどの取り組みが進められました。

また、集落内の水路や各家庭に残るカバタは、環境の変化などにより選定当時とは保存状態が異なっている場合も少なくないことから、令和4年度から、協議会役員による水路・カバタ現況調査が進められています。



見学用カバタの設置



注意喚起看板の設置（写真中央）



水辺あかり事業



水路調査

団体等情報：針江・霜降の水辺景観まちづくり協議会
<https://harisshimo.jp/>

① 地域内での
魅力の共有

② 活性化の
目標の共有

③ 地域外への
広報

④ 魅力を引き
出す開発

⑤ 財源の
確保と運用

⑥ 人づくり